

青森県立高等学校魅力づくり検討会議 検討結果報告書（案）【概要】 (令和7年2月20日)

第1 魅力ある高等学校づくりに向けた基本的な考え方（P2~4）

1 高等学校教育を取り巻く現状（P2）

- 人口減少やグローバル化の進展等、社会の急激な変化
- 生徒の能力や進路志望等の一層の多様化
- 特別な教育的支援を必要とする生徒や不登校経験を有する生徒、外国につながるのがある生徒等、様々な事情を抱えた生徒が在籍
- 地理的状況や学校・課程・学科にかかわらず、生徒の多様な教育的ニーズに対応した柔軟で質の高い学びを実現し、全ての生徒の可能性を最大限に引き出す「多様性への対応」を図りつつ、全ての生徒が社会で生きていくために必要となる力を身に付けられるよう「共通性の確保」を併せて進め、「生徒を主語にした」高等学校教育を実現

2 「魅力ある高等学校づくり」の視点（P3）

- これまでの高校教育改革の成果や課題のほか、本県の実情等を踏まえつつ、新たな視点を取り入れながら将来の高校の在り方を見据えた「青森県ならではの高校教育改革」を推進
- 生徒の夢や志の実現を県全体が一体となってきめ細かに支援できる環境づくり
- 環境づくりに当たっては、教員がゆとりを持ち、生き生きと日々の教育活動に取り組むことができるよう教員の負担軽減を図るなど、一層の配慮が必要

3 高等学校教育の方向性（P3~4）

(1) これからの時代に求められる力の育成

- 生きる力や主体性、多様性を尊重する心、郷土を愛する心 等
- 夢や志に応じた力
- 柔軟性や創造性等、急激に変化する社会において求められる力

(2) これからの時代に求められる人財の育成

- 青森県や地域の発展に貢献できる人財
- 社会を牽引できる人財
- 職業の多様化に対応できる人財 等

(3) 高等学校に求められること

- 全ての生徒が安心して学べる環境づくり
- 一定の水準を満たした教育や誰一人取り残さないきめ細かな教育の提供による生徒のウェルビーイングの向上
- 多様な主体との連携・協働による教育活動全体の更なる魅力化
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善等のカリキュラム・マネジメントの適切な実施
- 探究的な学びや学科横断的な学び、STEAM教育等の充実
- 各校の特色や役割に応じた教育制度の効果的な活用

第2 学校・学科の充実の方向性（P5～15）

1 これからの時代に求められる高等学校の魅力づくり（P5～8）

（1）教育活動の更なる充実

① 各校の特色を生かした取組の推進

- カリキュラム・マネジメントを通じた教育活動の更なる充実、魅力の情報発信
- 「青森県ならではの取組」の推進
- 全国からの生徒募集の新たな導入については、中学生の入試環境への影響等を踏まえ検討

② ICTの活用による教育活動の充実

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた対面指導と遠隔・オンライン教育の最適な組合せ
- 教員の資質向上や専門スタッフの配置の充実
- 遠隔授業を実施する場合は、教科・科目の特性を考慮し、多様な教科・科目を開設できる体制を整備

③ 特別な教育的支援を必要とする生徒への教育の充実

- 教員の資質向上や専門スタッフの配置の充実
- 教育支援センター等の関係機関との連携、特別支援学校の分教室の設置、通級による指導の充実
- ICTの活用等による個に応じた指導の充実

（2）多様な主体との連携・協働

① 高等学校間・学科間の連携

- 各校や各学科の実情に応じた効果的な方法での連携の推進
- これまでの枠組みにとらわれない連携の推進

② 異なる校種間の連携

- 小・中学校との連携：キャリア教育の推進等
- 大学等との連携：遠隔・オンライン教育の実施等

③ 地域や関係機関等との連携

- 連携・協働体制の構築・強化、地域について理解を深める学習等の実施
- 連携を担うコーディネーターの配置と研修等を通じたコーディネート機能の充実

2 これからの時代に求められる力を育む学科等の魅力づくり（P9～13）

（1）全日制課程

① 普通科等（普通科、理数科、グローバル探究科、スポーツ科学科、表現科）

- 教育資源や強みを生かした更なる特色化・魅力化
- 地域や関係機関等との連携による教育活動の充実

② 職業教育を主とする専門学科（農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科）

- 基礎的・基本的な学びを土台としつつ、各産業を取り巻く環境の変化に対応した学びの推進
- 地域や関係機関等との連携による教育活動の充実

③ 総合学科

- 外部人材や関係機関等の地域の教育資源の積極的な活用による多様な分野の学びの提供
- 社会の変化や生徒のニーズに対応した教育課程の編成

（2）定時制課程・通信制課程

- 多様な学びの提供、生徒一人一人へのきめ細かな指導の充実
- 定時制課程：募集人員を含めた午前部、午後部、夜間部それぞれの在り方を検討
- 通信制課程：スクーリングを受けやすい環境の整備、後期入学や転入学・編入学に対応した体制の整備
- 従来の全日制・定時制・通信制課程の枠組みにとらわれず、学習時間帯や教科・科目を柔軟に選択できる体制を検討

3 学校・学科の魅力づくりに向けた教育制度（P14～15）

（1）中高一貫教育

- 既導入校については、特色の明確化や小学校等との連携による教育活動の充実
- 新たな設置等については、周辺の市町村立中学校への影響等を総合的に勘案して判断

（2）全日制普通科単位制

- 既導入校については、主体的に科目選択ができるメリットを生かした指導・支援による教育活動の充実
- 新たな導入については、各校・各学科の役割や特長に応じて普通科以外も含めて検討

（3）総合選択制

- 既導入校については、生徒の進路志望等に応じた多様な選択科目の設定等による教育活動の充実
- 新たな導入については、これまでの効果や課題等を踏まえ検討

（4）コミュニティ・スクール

- 新たな導入については、既導入校における取組状況等を踏まえ検討

（5）入学者選抜制度

- 選抜方法や実施時期、募集方法等、制度の在り方を検討

第3 学校配置の方向性 (P16~20)

1 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置の観点 (P16)

(1) 高等学校教育を受ける機会の確保

- 全ての生徒が夢や志の実現に向けて高校を選択できる環境づくり
- 地域と一体となった人財育成が進められてきたことを踏まえた学校配置
- 地理的な要因等により高校への進学に支障が生じないような通学環境への配慮

(2) 充実した教育環境の整備

- これからの時代に求められる人財育成に向けて、高校に求められる教育を提供できる教育環境の整備
- 様々な事情を抱えた生徒の多様な教育的ニーズへの対応
- 高校間・学科間の連携や地域等との連携の更なる推進による高校教育の質の確保・向上

2 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置 (P17~19)

(1) 全日制課程

① 学校配置の考え方

- 6地区ごとに、中学校卒業予定者数の推移や産業動向、中学生のニーズ、地域の実情等を考慮し、生徒の進路志望等に応じた様々な役割を担う高校を配置
- 各校が担うそれぞれの役割に応じてより特色ある教育活動を実践できる教育環境を提供

② 学校規模

- 各地区に一定規模の高校を配置しながら、きめ細かな指導や生徒の通学環境に配慮して小規模校も配置
- 学校規模も特色の一つと捉え、多様な高校を配置

③ 小規模校の配置

- 「高等学校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の観点を考慮し、小規模校を配置
- 特長を生かした取組の推進、配信センターからの遠隔授業の実施、地域等との連携等による教育活動の充実
- 配置基準や募集停止等の基準を含め、地域校制度の在り方を検討

(2) 定時制課程・通信制課程

- 多様な学び方のニーズ等に対応するため、現状の配置を基本としつつ、全日制課程と合わせた学校配置を含め、拡充も検討

3 学校配置と合わせて検討すべき事項 (P19~20)

(1) 再編の方法等

- 新たな学びの創出や基幹産業に関する学科の学びの維持のための学校・学科の統合を検討
- 社会の変化を見据えた学びを提供できるような学科の設置、キャンパス制の導入、中学校等との併設等も検討

(2) 学級編制

- 各校・各学科の特長に応じて、少人数学級編制の実施や単位制の導入を検討

(3) 通学手段の確保・通学支援

- 県と市町村や交通事業者等とが連携し、公共交通機関の増便やダイヤの改正、スクールバスの運行、寮の整備、通学費や下宿代の補助等の対応を検討

第4 地域等の理解と協力の下での魅力ある高等学校づくり (P21)

- 地区の具体的な学校配置等について、市町村やPTA等とあらかじめ意見交換する場の設定
- 実施計画等について広く県民へ説明し意見を伺う場の設定やパブリック・コメントの実施
- 統合を行う場合には、統合校の教育活動の充実に向けて、統合対象校の関係者等による検討を実施